

かとうひさこの  
パーフェクト  
スケーリングテクニック

*Perfect  
Scaling  
Technique*



加藤久子 著

Kato, Hisako R.D.H., B.S.D.H

# 4 プロビング

## 1 プロブの操作

### 1 正しい把持の確認

プロビングの一番のポイントはプロブの把持方法です。プロブは執筆状変法把持法で軽く持ちます（エキスプローラーよりもしっかり、スケーラーよりも軽く持ちます）。正しくプロブを把持しないと、プロビング時に適正圧にならないだけでなく、プロブの挿入時やウォーキングストロークの際、患者に痛みを与えてしまいます。

この機会にもう一度自分の把持の仕方をチェックしておきましょう。

#### (1) 正しい把持

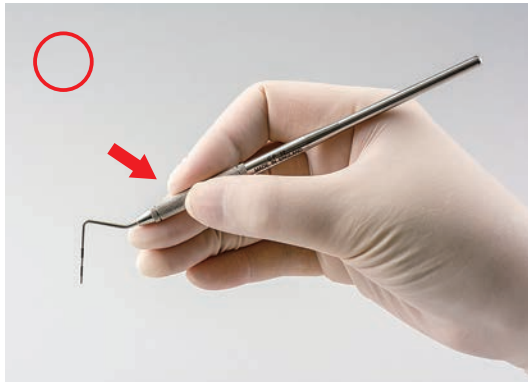


図 4-1 執筆状変法把持法

ペンを持つように把持してはいけません。4本の指を離さないで持つのがポイント

#### (2) 誤った把持

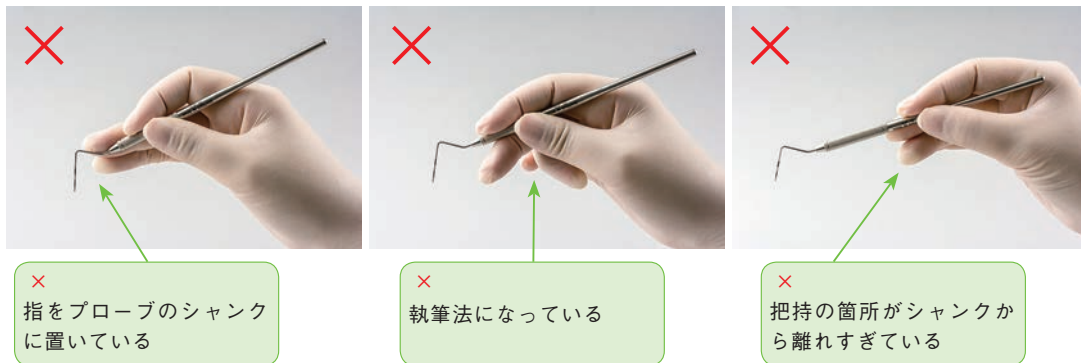


図 4-2 誤った把持

## 2 ポケット値の記録

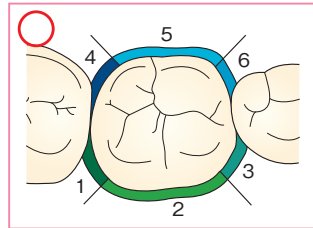


図 4-3 正しい 6 点法  
各部位をウォーキングストロークでプロービングし、もっとも深い値を記録する

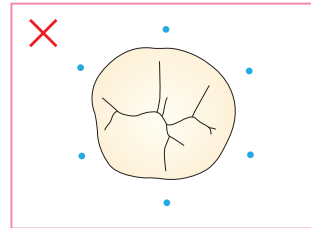


図 4-4 誤った 6 点法  
6 点のみをプロービングするわけではない

## 3 正しい測定の方法

### (1) 目盛りの側面を使用する

プローブは目盛りの側面を歯面に沿わせて使用します。また、プローブの先端すべてを使用すると痛みを与えてしまうこともあります。



図 4-5 目盛りの側面を使用します。シャंकと歯面が平軸になるのが目安です



図 4-6 プローブによる読みやすさの違い

第二のポイントは、プローブを歯軸に平行に挿入し、保つことです。この状態を保ちながらウォーキングストロークを行います。なお、挿入角度が大きいと患者に痛みを与えるため、口蓋側など見えづらい部位を行う際はミラーを使用します。ミラーにより光を集めて視野を明るくし、プローブが歯軸と平行になっていることを確かめます。また、口蓋側のプロービングを行う際は、カラーコードのついたプローブを使用することで、目盛りを正確にすばやく読み取れるため、患者にも負担をかけにくいでしょう。

## ①自分に合った固定法を判断する目安は？

目安としては、グローブがSSサイズの人→対合歯固定

グローブがS以上のサイズの人→口腔外固定，頬骨固定を応用する

上記はあくまで目安です，患者の開口の程度によっても変わります。

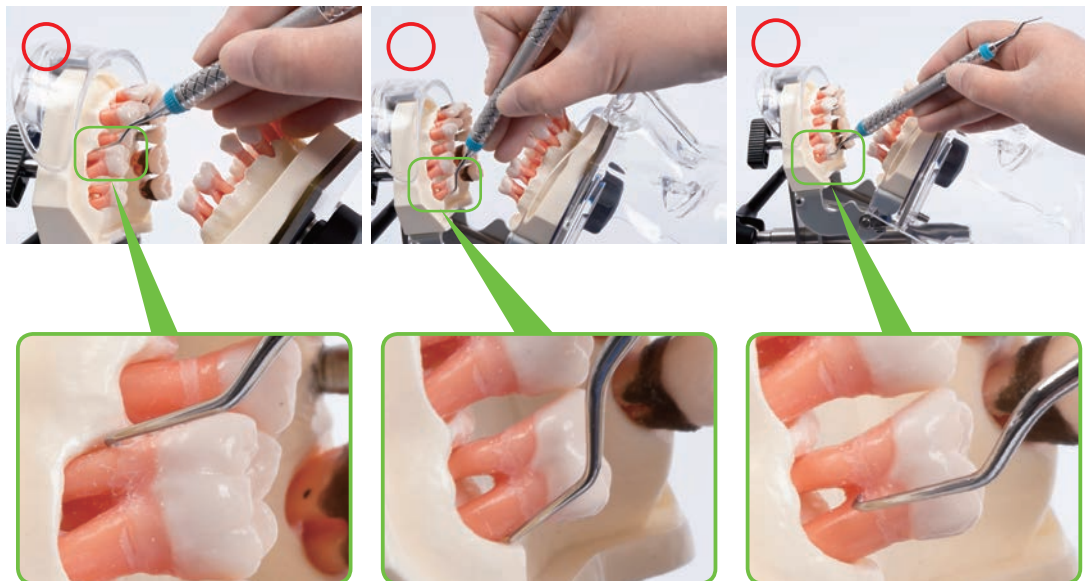
## ②隣在歯固定ではうまく術部にとどかない

口腔内固定でのスケーリングは長時間行っていると疲れがたまります。疲れてきたときには，操作性も落ちるので，手を休ませる意味も含め，対合歯固定や口腔外固定を利用しましょう。



図 9-20 誤った例

口腔内固定で正しく適合できていません。垂直ストロークで第1シャックが歯根面に対して斜めになってしまい術部に刃部が到達できない状態です



①第1シャックと歯根面が平行になった

②対合歯における4指固定では力が入らないので，ビルドアップ固定をとる工夫をしてもよい

③頬骨固定で到達した

図 9-21 正しい例

## 2 頰側遠心面（2 根歯）（ex. $\overline{67}$ ）

### (1) ポジション



11 時

### (2) 固定法

固定法は口腔内固定です。固定が遠く感じる場合は、位置を術歯にさらに近づけてみましょう。またはビルドアップ固定を試してみます。



図 9-22 口腔内固定

### (3) 挿入の仕方



① グレーシーキュレットを歯面に当てる

② 刃部を傾ける

③ 先端を下に下げ、挿入

図 9-23 挿入の仕方

#### (4) 斜めストロークも併用する

最初は垂直ストローク。垂直ストロークができなければ斜めストロークを試します。

#### (5) 3 根の歯のスケーリング (ex. 5)

##### ① 歯根の形を頭に入れる

頬側のルートランクには深いへこみがあります。これは 2 根になった根分岐部からのラインです。

なお、根分岐部は歯頸部と歯冠の境から約 4 mm 上にあります。

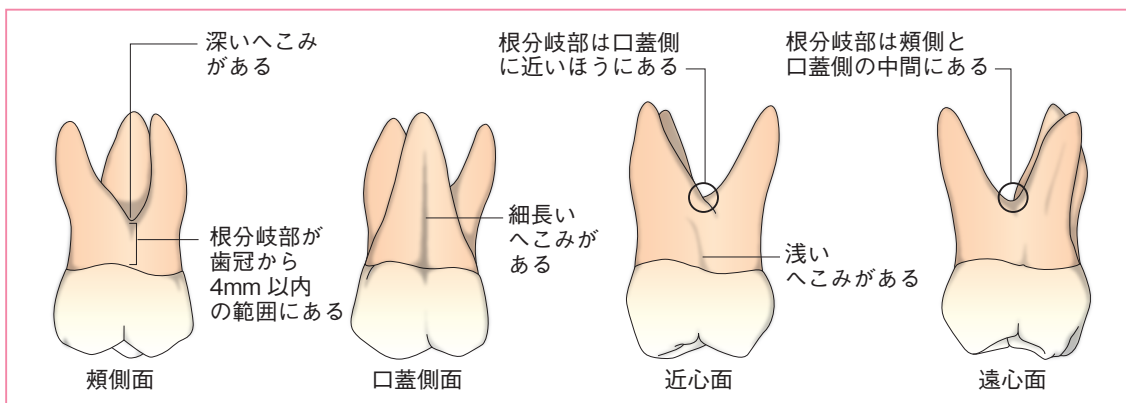


図 9-25 歯根の四側面

#### 6 7-4 頬側

##### (1) はじめに各歯遠心隅角→遠心面コンタクトポイントまでを行う

7 1より遠心隅角～遠心面, 次に 6 1の遠心隅角より遠心面…と順に, 4 1まで行います。

##### (2) #17/18 で斜めストロークも応用する

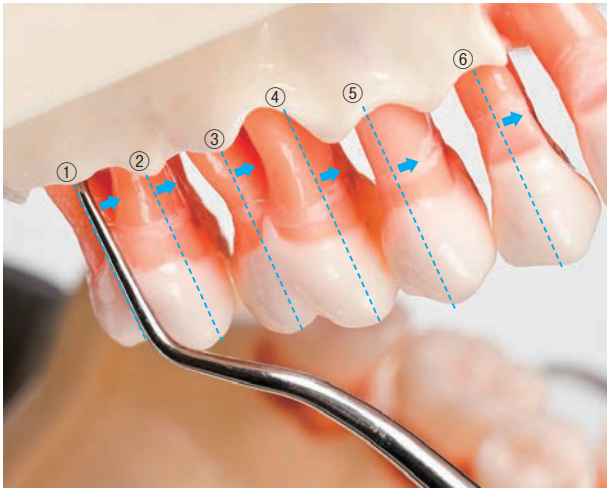
#17/18 の座位用のグレーシキュレットを口腔内固定で使用して, 第 1 シャンクが歯軸に平行にならない場合は, 斜めストロークを試してみましょう。



図 9-26 斜めストロークの応用

**(3) 各歯遠心隅角→近心に向けてスケーリング**

常に第1シャンクを歯軸に平行にしてスケーリングをすすめましょう。



7 | 遠心隅角より，近心にむけて



7 | 遠心根近心面



7 | 近心方向にスケーリング



7 | 近心面



6 | 遠心隅角～近心面



6 | 遠心根近心面



6 | 分岐部のスケーリング



6 | 近心隅角～近心面



6 | 近心面